

ど、さらに改善して、測定を積み重ねることが望まれる。これらの研究が発展することによって、塩害防止対策や沿岸気象に必ず役立つものと思う。

8. 謝 辞

この研究を遂行するにあたり、常に助言と援助をいただいた阿部豊雄氏はじめ東京理科大学の阿部研究室員に感謝の意を表します。また、観測にあたり、施設を接供して下さった東京学芸大学附属世田谷小学校氏に深く謝意を表します。また研究をまとめるにあたって、有益な助言とご指導をいただいた気象庁の半沢正男氏（現在宮崎地方気象台長）に深く謝意を表します。

文 献

- 阿部友三郎, 1972: 海の泡と災害, 気象, pp. 3229-3231.
 阿部友三郎, 1973: 海水泡沫および海塩粒子の挙動と塩害, 表面処理ジャーナル第6巻第2号, pp. 12-20.

- 田中正昭, 1971: 塩害に関する基礎研究(第5報) — 海岸近くにおける強風時の海塩粒子の分布 —, 京都大学防災研究所年報第14号, pp. 499-510.
 電気協同研究: 海塩粒子の発生と附着, 塩害と気象第20巻第3号, pp. 5-28.
 鳥羽良明, 1996: 海塩粒子—大気と海洋との相互作用の一要素として—, 海と空第41巻第3, 4号, pp. 71-118.
 中山道夫, 1968: 製塩工業の動向, 化学工業6月号, pp. 17-27.
 浜 昊一, 高木 昇, 1970: Measurement of Sea-salt particles on the Coast under Moderate Winds, 気象研究所研究報告第21巻第4号, pp. 449-458.
 Farlow, N.H. 1957: A Method for Measuring Water Content of Airborne Sea-salt Particles, Journal of Meteorology vol. 15, pp. 228-230.
 Blanchard, D.C. and L. Syzdek, 1972: Variations in Aitken and Giant Nuclei in Marine Air, Journal of Physical Oceanography vol. 2 no. 3, pp. 255-262.

1974年第6回レーザー・レーダー国際会議

期 日: 1974年9月3日～6日
 場 所: 仙台市桜ヶ岡公園4-1号
 仙台市民会館
 主 催: 1974年レーザー・レーダー国際会議組織委員会
 共 催: 東北大学電気通信研究所
 東北大学理学部超高層物理学研究施設

講演締切: 1974年4月1日までに英文アブストラクト提出のこと
 申込および連絡先: 〒980 仙台市片平2丁目1-1
 東北大学電気通信研究所
 稲 葉 文 男
 0222-27-6200 内線3425

天気編集委員会からのお知らせ

最近別刷の配布について、トラブルが多く、会員の方々に御迷惑をかけています。当委員会では、今後この種の問題が起らないよう、印刷を請負っている三報社に注意を喚起するとともに、投稿原稿には所定の送り状をつけることにいたしました。会員の御協力をお願いします。なお別刷は従来、多分に印刷所のサービスに負う習慣が続いて参りましたが、最近の用紙の異常な値上りや印刷費の上昇などにより、近く別刷の価格を改訂せざるを得ない状況となりました。本誌掲載の論文・短報・解

説・総合報告・シンポジウム記事については従来どうり無償で別刷30部を差上げることにいたしますが、表紙はつけないことにします。(表紙をつける場合は有料となります)これは表紙の印刷と製本を、新たに製本業者に発注するために、かなりの経費を支払わなければならないからです。なお、最近、本誌の配布が紙不足や印刷所の都合でおくれて御迷惑をかけたことが、今後は順調に発行される見込です。